

演題5. 『管楽器歯科』考

○渡辺 律

大船渡市開業

目的：我が国の管楽器奏者は100万～300万人と言われていている。しかし管楽器奏者に対する専門的且つ木目細やかな歯科治療及び矯正歯科治療を意味する『管楽器歯科』は、歯科医師にも患者さんである管楽器奏者にも、その存在すら知られていない未開の分野である。演者は歯科界と奏者の両者の為に全国レベルの研究会を立ち上げるべく、その第一歩として今回の発表を決意した。

紹介内容：

- 1) 管楽器歯科の歴史
- 2) 序論 ①アンブシュア ②アンブシュアの分類 ③楽器の構え方 ④管楽器吹奏が歯・歯列・顎顔面に及ぼす影響

考察内容：(演者自らの吹奏経験と管楽器歯科治療から考察)

- 1) 固有歯列・咬合に適した楽器の選択
- 2) 管楽器奏者への歯科治療(含む矯正)に際しての留意点
- 3) 今後の目標

結論：

- ・管楽器奏者に対する特別な配慮をして治療を施している歯科医師の存在を認識して頂きたい。
- ・固有歯列・咬合に適した楽器の選択を、歯科医師サイドから助言できる様に、管楽器に関して関心を持ち、理解頂きたい。
- ・演奏能力向上と永年の吹奏をサポートする為にアダプターが有効である。
- ・管楽器奏者に対する矯正治療やインプラントは、専門的配慮が必要である。

演題6. ビスホスホネート関連顎骨壊死(BRONJ)に対する外科的処置の経験

○水城 春美, 八木 正篤, 古城慎太郎, 阿部 亮輔, 中島 崇樹, 羽田 朋弘, 石川 義人

岩手医科大学歯学部口腔外科学第一講座

目的：ビスホスホネート(BP)製剤は、近年、骨粗鬆症や悪性腫瘍の骨転移などの疾患の治療に広く使用されているが、BPの副作用である顎骨壊死・骨髄炎(BRONJ)の発症が問題となっている。今回、BRONJに対して外科処置を施行した7症例について検討し、その概略を報告した。

症例：7症例はすべて女性で、年齢は55～79歳で、原因疾患は骨粗鬆症が5例、乳癌の骨転移が2例であった。使用BPは内服のアレンドロン酸ナトリウム(商品名：ボナロン)が5例で、2例が注射薬のゾレドロン酸水和物(商品名：ゾメタ)であった。投与期間は1年半から約8年で、発症の契機は4例が抜歯であった。罹患部位は下顎骨が4例、上顎骨が3例で、6例が臼歯部で、1例が前歯および臼歯部で、また下顎の1例では両側にみられた。米国口腔顎顔面外科学会による病期分類では、ステージ2が5例、ステージ3が2例であった。BRONJに対して施行した外科処置は腐骨除去あるいは皿状形成術で、上顎の広範囲に生じた1例では、上顎部分切除術に準じた方法で腐骨除去および顎骨切除を行った。7例の術後経過はいずれも良好で、現在再発は見られていない。

考察・結論：BRONJに対する明確な治療方針はまだ確立されておらず、米国口腔顎顔面外科学会の治療方針では、ステージ2では表層の骨削除など保存的療法を推奨しているが、症例によっては排膿が持続するなど、長期間にわたって不快な症状を呈することもあることから、ステージ2においても積極的な外科処置は治療期間の短縮などの点からメリットのあることと思われる。また、外科処置に際しては、腐骨の除去ならびに周囲骨の一層の削除を行い、骨の新創面は周囲軟組織あるいは人工真皮などで被覆するのが良いと思われる。